

ヤマビルの仔ビル誕生のピーク・最盛期はいつごろなのか？

平成26年12月15日 谷 重和

神奈川県秦野市は表丹沢に代表される豊かな自然と名水とうたわれるおいしい水（戸川林道竜神の泉）のある地域で、戸川林道から人気の高い鍋割山、二ノ塔、三ノ塔などに向かって多くの登山者・ハイカーが訪れます。近くには、丹沢の玄関口としての県立秦野戸川公園があります。

この戸川林道において2013年の5月17日、7月12日と10月18日の併せて3回ヤマビルの生息数調査を行い、季節毎に捕獲された大小のヤマビルの大きさを調べました（図1）。その結果、5月と7月ではヤマビルの大部分（85%前後）は中型から大型の個体（体長10mm以上、生体重50mg以上、後吸盤直径2.5mm以上）で占められていました。ところが、10月に捕獲されたヤマビルは中～大型の個体は少なく（25.0%）、ふ化後数週間しかない仔ビル（体長5-6mm、生体重10mg以下、後吸盤直径1.0mm以下）の割合が75%と多くなっていました（写真1）。以上のことから、戸川林道では、ヤマビルの仔ビル誕生のピーク・最盛期が10月であることがわかりました。同様な調査を津久井町の早戸川林道丹沢観光センター周辺や厚木市の弁天の森キャンプ場などでも行いましたが、仔ビル誕生のピークの時期が9月と少し早まっていたが、同様な傾向を示していました。恐らく、神奈川県下では9～10月の季節に卵のうからふ化した仔ビルが誕生のピークを迎えているのではないかと推測しています。

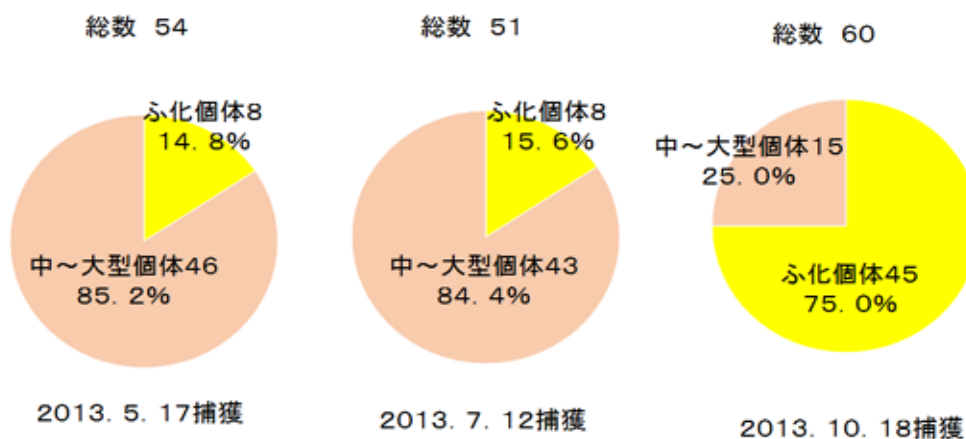
通常、ヤマビルは吸血すると、1か月後に卵のうを数個産みます。更に1ヵ月後には卵のうから仔ビルがふ化してきます。1個の卵のうには5-10個の卵が入っていますので、もし仮に、ヤマビル1個体が2個の卵のうを産んだとすると、2か月後には10-20個体の仔ビルが増えたこととなります。このことは、神奈川県下では9-10月になると、10倍以上に増えた体長5-6mmの小さいヤマビルに吸血される危険性が高くなることを示しており、丹沢に行かれる方々は吸血されないように十分な注意が必要です。なお、この小さな仔ビルはシカ・イノシシなどの野生動物に付着して吸血しながら、運搬役となって他の場所に移動・拡散していくのではないかと考えられています（図2）。

そこで、戸川林道で今年、2014年の6月16日と9月29日に枯葉・枯木や草の下に産卵したヤマビルの卵のうを死滅させるために、除草バーナーを用いたヤマビル防除を行いました（写真2）。除草バーナーでは土壌の表面温度が800℃以上になりますので、卵のうだけでなく、仔ビルから中～大型のヤマビルまで死滅させることができます（卵のう表面は薬剤が浸透しにくく、薬剤による致

死効果は余り期待できません)。

防除手順は ①草刈機による除草を行い ②ブロワー処理で落葉などを吹き飛ばして地表面を露出させる ③灯油式バーナーで地面を焼く(卵のう、虫体を殺滅・致死させる。落葉は焼かない) ④消火を兼ねてヤマビルキラー(液剤)を散布する。以上の順序で実施したところ、新たにふ化してきた仔ビル数は大幅に減っているのが観察されました。ただ、除草バーナーを用いる場合には山火事への危険性があるので細心の注意が必要です。

(図1)神奈川県秦野市戸川林道におけるヤマビルふ化個体数の推移



(写真1)
・中～大型のヤマビル
・ふ化後数週間の仔ビル

(図2) 仔ビルの誕生の最盛期・ピークは？



(写真2) 戸川林道における除草バーナーを用いたヤマビル防除

